

排他的指示機能からみた対称詞

小林美恵子

1. はじめに

小林(1997)によれば、職場の会話データでは、「あなた」「おまえ」などに「名字・名前」+敬称・役職名などを加えた対称詞⁽¹⁾の出現は131例、発話文の総数10863に対して1.20%にすぎなかった。なかでも、対称代名詞「あなた」「おまえ」などの総数は26例(0.23%)にとどまっている。日本語の自然談話では対称詞、ことに対称代名詞の出現がきわめて少なく、そこに何らかの抑制の要素が働いていることが想像される。

小林(1999)では中国映画の中国語・英語・日本語字幕を比較することにより、日本語においてどのような場面、文脈で自称・対称詞が使われ、また使われないかを、同一場面の他言語と照らし考察した。このとき比較した資料は自然談話ではないが、同一場面での日本語の対称代名詞の出現率は他言語の4分の1程度で、やはり低い。この調査によれば、相手を、他の人でなく面前的の相手を指しているのだと、いわば排他的に取り立てて強く指示するような文例において対称代名詞が出現していた。⁽²⁾そのような取り立ての意図がない場合は、主格としてであれ、行為・動作の対象を表す場合であれ、所有を表す場合であれ、対称代名詞は回避される傾向が見られた。この部分が中国語や英語との出現率の差となる。また小林(2000)ではTVドラマ中の特定の人物間に用いられた複数種の対称詞の使い分けの様相を観察したが、その結果から、使い分けの基準として(1)場面や文脈が要求する排他的指示の必要性、(2)対称詞自体が持つ排他的指示機能の強さ、があり、これに相手と自分との距離の取りかたへの意識や、相手との地位・立場などの意識など、いわゆる待遇意識が関連して対称詞の使用・不使用や、使用する語の選択が行われていると考えた。小論では(1)(2)について整理し、特に対称詞自体の持つ排他的指示機能が語の選択にどのような影響を持つのかを考察する。

2. 対称詞の排他的指示機能

2.1 (1) 場面や文脈が要求する排他的指示の必要性

さきに述べたとおり、日本語の談話では、特に排他的に相手を示す必要性がない場合には対称詞は用いられないことが多い。例えば、動作や行為の主を示すのに人称詞ではなく敬語の使用の有無によるなど、述語によって対応する。とはいえ、一般的に対称詞の使用が回避されない場面・文脈ももちろん存在する。次のようなものである。以下にあげる01～18の例は小林(1997)(1999)(2000)の資料による。前述のとおり資料のうち(1997)は自然談話、後の二つはそれぞれ映画・TVドラマの作例である。(下線は筆者による)

①注意喚起・話題の展開、転換のための発話標識としての呼びかけ

- 01 大将、電話。 (1999魚屋の使用人が客の相手をする店主に)
- 02 [名字] 次長、[名字] さんから内線です。 (1997女20代→男50代)
- 03 先生、ちょっとよろしいですか。 (1997女40代・編集者→執筆者)
- 04 あ、でも先生、ワックスがけて特別清掃区域でしょ？廊下と。
(1997女30代→男50代・同僚)
- 05 おまえ、この短い魚はなんだ？ (1999夫40代?→妻40代)
- 06 暴露する気?あんた。 (1997女30代→女20代・同僚)
- 07 おまえ、絶対に誤解してるよ。 (1997男30代→女20代・同僚)
- 08 で一、[名字]、じゃ、おまえ二年んとき、なにやってたのよ。
(1997男性教師50代→男子高校生・生徒)

01、02は典型的な注意喚起のための呼びかけである。01はやや距離があつて、相手の顔が見えない状態で、02は複数の人の中から相手を特定して呼びかけている。このような場合、対称詞の回避はむずかしい。

03～07および、08の[名字]は、実は話者にとって相手がすでに特定されて同じ場面におり、注意を喚起するための呼びかけとしては回避が可能だと考えられる。それにもかかわらず、対称詞の使用が選ばれるところに、対称詞の持つ意味や働きを見ることができよう。高橋(2001b)はこれらの呼びかけのうち、文頭に来るものについては、談話標識として話題の展開・転換

をマークする働きを持つとする。

ポライトネス理論 (P.Brown and S.Levinson 1987・以下B&Lとする) では、01～08のような対称詞はFTA (Face Threatening Act) を補償するポライトネス・ストラテジーであるとされる。つまり、相手への批判・要求・否定など「フェイス(面子)を侵す言及」(FTA) を緩和するために「相手を尊重し踏み込まない」(negative politeness)「親しみを示す」(positive politeness) 意図を持つ呼びかけである。しかし、用例を検討してみると、01、04などはネガティブ・ポライトネスとして使われているのか、ポジティブ・ポライトネスとして使われているのか判然としないし、05以下の対称代名詞についてはポライトネス・ストラテジーというより、FTAそのものであるかのように感じられる。この点については小林(1999)(2000)でも触れ、高橋(1999)(2001a)にも論及があるが、いまだ十分に説明されているとは言い難い。

②提題として取り立てる場合

09 そいで、あなたはやっぱり普通の人とつきあったほうがいいと思う。

(2000女20代→男20代・恋人)

10 おまえってそういう奴なんだよ。 (1997男30代→女20代・同僚)

11 [名字] 先生は一、やっぱり報告者の一人ですから一、上にいらっしやらないと。 (1997男40代→男60代・同僚)

12 やっぱり、あなた、まだあれわかってないんだわ。

(1997女性教授50代→女性大学院生30代)

09～11の対称詞は提題助詞「は」や「って」などによりこれらの文の主題として提示されている。「これから誰のことを語るのか」ということを明示するためにいわば起動される指示語であるから、直前に呼びかけなどの形で起動が行われていないかぎり、省略・回避は難しい。12は助詞は伴わないが、呼びかけに用いられた対称詞が同時に後続の述部の主題になっているという点では09～11と同様の働きをしている。①にあげた07や08の「おまえ」も同様である。ただ、08の「おまえ」は、名字の呼びかけで既に起動されているので回避が可能であり、あえて使うことがFTAになっていると言えよう。

なお、高橋（2001b）によれば、これらの対称詞の提示する「主題性」は対称詞が文頭近くに位置する場合ほど高い。これらは話題の導入をし、会話の相手の注意を会話の場に向け、会話の場作りをする効果、すなわち「呼びかけ性」を持つという。

③文法的な必須格として用いられる場合

- 13 じゃ [名字] さんが変死したら、奥さんだと思えばいいわけね？
(1997女40代→男30代・同僚)
- 14 [名字] さんとっ（所）からだったら車で一時間半とかぐらいで、
行きます？ (1997女20代→男20代・同僚)
- 15 わたしはご飯あなたにあげなきやいけないのか。
(1997女50代→男30代・同僚)

これらは文中のさまざまな位置にさまざまな形で出現するが、いずれにせよ省略することで、文は不完全なものとなり、通じにくくなる。しかし、対称詞の回避がごく普通に行われる日本語においては、たとえ避け得ないものとしてであれ、対称詞は使用される以上、話の相手を話者や第三者でなくその人自身として、①や②と同様、排他的に取り立て、そのことによってFTAを強化すると考えられる。この点は、英語などの人称詞の働きとは大きく違うところである。たとえば、英語でも「You!」という呼びかけは失礼なものとなされ、対称詞の回避がポライトネス・ストラテジーとなることはある。(B&L 190-206) しかし文中に現れる必須格としての「you」そのものが相手のフェイスを侵すほどの重さを持って使われるわけではない。ギル(1989-37)は「you」の中には「わたし」も「あなた」も「人」も「皆」も含んだ意で使う言い方があり、その点で「you」はむしろ日本語の主格語なしと似ていると言う。

④引用として用いられる場合

- 16 あなたが決めて、みたいな世界だからさ。(1997女30代→女30代・同僚)

17 (前略) たとえば労使で問題になったとき、使側は、あんたはほん
とに権利があるのかと。 (1997女40代→女50代・同僚)

18 今日 [名字] さん点数多すぎるよね、とか言ってる。

(1997女30代→女40代・同僚)

18のように眼前の相手について、相手自身を指した引用では、①～③と同じく相手と話者との関係によって対称詞が選ばれることになるが、16、17のように、その場にいない第三者や、一般論としての人を指すような引用では「あなた」「あんた」「おまえ」などが使われることが多い。これは言うまでもなく、引用中の対称詞が眼前の相手を指すのではないことから配慮が不要なことによるだろう。実際にもとの話者がこれらの対称代名詞を使っているとはかぎらない。ここからも「あなた」「おまえ」などに、相手への配慮が不要なときに用いられるFTA的な要素があることが察せられる。

以上、対称詞が一般に回避されない、しにくい場合をあげたが、これらについては、では、どのような対称詞が使われ、その選択の基準は何かということが問題となる。一方、実際の用例においては文脈上回避しうる対称詞があえて使用される場合もある。この場合、なぜ、あえて回避しないのか(回避しないことの意味)と、そこで選ばれた対称詞はなぜ選ばれたのか、ということが問題となる。

2.2 (2) 対称詞自体が持つ排他的指示機能

既に述べたとおり、日本語の対称詞は、相手を、他の誰かではない眼前の相手なのだとして特定する機能を持つ。この機能はすべての対称詞に同程度にあるということではないだろう。そしてこの度合い(排他的指示性)の差が、対称詞の選択の一つの基準になっていると考えられる。

日本語の対称詞は大きく次の5種に分けられる。

①対称代名詞

あなた・あんた・きみ・おまえ・きさま・おたく(さま)・そちら(さま)

②姓名に関する呼称

名字呼び捨て・名字+敬称（さん・くん・ちゃん・役職名など）、名前呼び捨て・名前+敬称・愛称（ニックネーム）など

③社会的地位・立場や職業・役職名

先生・社長（さん）・看護婦さん・運転手さん・お客さま（さん）・奥さん・旦那（さん）・お嬢さん（ちゃん）・坊や（ぼっちゃん）・大将（？）・小僧（？）など

④親族呼称の援用

おじいさん（ちゃん）・おばあさん（ちゃん）・おじさん（おっちゃん）・おばさん（ちゃん）・おやじ（さん）・お父さん・お母さん・（お）姉さん（ちゃん）・（お）兄さん（ちゃん）など

⑤自称・他称（三人称）の援用

ぼく・われ・自分・彼氏・彼女 など

①はいわゆる対称代名詞である。それぞれの語によっていわゆる待遇価値の差はあるが、相手を、そこにいるその人そのものとして指し、地位・立場など、なにかの概念に属するものとして指し示すのではないという点においては共通しており、排他的指示性はきわめて強い。「あなた」「おまえ」などは元来、そのような強い指示性をさけて場所や方向を示す尊敬語から援用されたものだが、既にそのような迂遠表現としての性質は失われている。ただ、「おたく」「そちら」などにはまだ漠然と相手のいる場所・方向を指し示すという要素は残っており、排他的指示性はやや低いと言えそうだ。

②は姓名にかかわる呼称である。これについても、その人固有の姓名をもって相手を指し示すのだから、排他的指示性は高いと言えよう。ただし、姓については家族や一族の一員として指し示すわけだから、下の本人固有の名をもって示すよりは排他的指示性は低いと考えられる。また「さん」「くん」「先生」などの敬称をつけることにより、FTAの緩和が行われることも多く、話者が相手の姓名を覚えているということ自体がFTAを緩和する働きをすることもあるから、対称代名詞に比較すると、呼称として選びやすいという

ことになる。

③は相手そのものでなく、職業やある地位・立場などに属するものの一人としての指示、④は親族呼称の援用で、話者が相手を疑似的に自分との家族関係に位置づけたり、または家族などの集団内での位置に擬して指示するものである。したがって③④は個人としての聞き手そのものを他から取り立てる機能においては①②より弱い。③はおもにネガティブ・ポライトネスとして、④はおもにポジティブ・ポライトネスとして、名前を知らないような相手への呼びかけなどにもよく使われるのは、この所以であろう。ただし、これらについては擬された立場が聞き手の実態と違った場合や、聞き手にとって不本意な場合（「おばさん」ではなく「奥さん」である、立場ではなく個人として扱ってほしいなど）には、失礼な対称詞として、聞き手の不快感を招くことがある。この場合、文意自体が相手のフェイスを侵すようなものでなかったとしても、聞き手にとって不快な対称詞そのものがFTAとなってしまうのである。この点については高橋（2001 a）において「FTAの見積り誤算」と説明されているものと一致する。なお、この傾向は「おまえ」「あんた」なども含め特にポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして用いられる対称詞に強いと言えよう。

⑤については、「ぼく」はおもに幼児に対する使用、「われ」は地方語、「自分」「彼氏」「彼女」は最近耳にすることもあるが、いまだ用例の採集が充分でなく、一般的なものではないと判断して小論では考察からはずした。

なお、前述のとおり、対称代名詞の排他的指示性は他の対称詞に比してきわめて大きいと言えそうである。

3. 「排他的指示性」はなぜ問題となるのか

先にあげた、05～07のような文例で「あなた」や「おまえ」を省略すると、相手に対する批判や要求のインパクトはかなり弱くなる。これらの対称代名詞には「念押し・強調」のニュアンスが強いと小林（1997・2000）では論じた。したがって、これらは、相手のフェイスを侵すことを望まない話者によっては使用を回避されるだろうし、逆に何らかの理由によって、相手のフェ

イスを侵してもかまわないと判断されたときには、あえて使用されるということにもなる。小林(1997)の資料では、教師が学生・生徒を問いたですというような場面で、このような対称代名詞が多くみられた。

高橋(2001a)では、これらを、FTA補償ストラテジーとして、いわばFTA先行語句的に用いられるうちに、FTAそのものとして機能するようになったとする。しかし、なぜそのようなことが起こるかについては説明されていない。

小論では、このFTAの強化は、これらの対称代名詞の持つ排他的指示機能の強さにより起こるのではないかと考える。次のような例で考えてみたい。

- 19-1 お客様、車内での携帯電話のご使用はご遠慮ください。
- 19-2 △あなた、車内で携帯電話をお使いにならないでください。
- 19-3 あなた、車内で携帯電話を使わないでください。
- 19-4 あなた、車内で携帯電話を使わないで。
- 19-5 ×あんた、車内で携帯電話をお使いにならないでください。
- 19-6 あんた、車内で携帯電話を使わないで。
- 19-7 (他人に) おにいちゃん、車内で携帯電話を使わないで。
(×は不適切、△は待遇度として一般的かどうか疑問がある文例である)

19-1は車内放送でよく耳にすることばであるが、この場合の談話標識として呼びかけの機能を持つ「お客様」は不特定多数で、電話をまさに使っているのではないが、聞いている客は「自分のこと」とは思わない。排他的指示機能はきわめて弱いのである。さらに「ご遠慮ください」という敬意表現とともにFTAを緩和するネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとして働いている。このような表現であれば、「客」は言われてもあまり不快感は持たない(頻発されてうるさいというようなことは別として)が、言うことを聞くということにもならず、車内での携帯電話使用は実際に絶えない。

「あんた」や「おにいちゃん」による呼びかけは19-5のように待遇度の高い敬意表現とともに使えない。19-6・7では、話し手は崩した語形(あんた)や親族呼称の援用により親しさを表出し、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとしようとするのかもしれないが、聞き手からみると不快とい

うことも起こり得る。ただこの不快は19-6と19-7では微妙にちがうのではないか。19-7では「なれなれしく呼ぶな、わたしはあなたの兄ではない」というような不快だと思われるが、19-6は「なれなれしく呼ぶな」「下位に見るな」ということとともに「ほかの誰でもないものとして、他者から取り立てられ指定される」ことへの不快があるように思われる。さらに「あなた」になると「なれなれしさ」「下位扱い」のほうはなくなり、「指定」のみが残るわけで、そうなると19-2~4のように、どのような待遇段階の表現をされても、この不快は残る。これが、すなわち排他的指示機能の強さによるFTAである。

小林(2000)では初対面の20代の男女が互いに批判・非難しあうときに「あなた」を用いる例を報告し、「あなた」が相手との距離を保った上で、確実に相手のフェイスを侵すための方策として用いられているとした。いっぽうで、難病の恋人に将来の役割を示唆するという文脈で「この本を並べるのはあなたの仕事だから、(中略)よろしくね」と、「あなた」で仕事をするのは話者自身や他の人ではなく面前の相手なのだと強く指示し、相手の仕事を指定するというフェイスを侵すことにより励ますという例もあることを示した。「あなた(おまえ)が好きだ」などという愛の告白も「[名字]さんが好きだ」と比べると、その排他的に取り立てる指示の強さが相手のフェイスの侵害であるがゆえに、愛の告白としては効果を強めていると言えよう。

ところで、排他的指示機能によって、対称代名詞自体がFTAになるとするならば、対称代名詞以外の部分に特にFTAがみられない文であっても、全体としてはFTAになると考えられる。

20-1 ああ、先生(旦那さん)、夕焼けが真っ赤です。

20-2 ああ、あなた、夕焼けが真っ赤です。

20-3 ああ、あなた、夕焼けが真っ赤だ。

20-4 ああ、おまえ、夕焼けが真っ赤だ。

20はB&L(183)にある「Goodness, sir, that sunset is amazing⁽³⁾」を意識してみたものだが、この場合、英語では文意にFTAがないゆえに「sir」による補

償は一般的には適切でないといわれる。日本語においては4例どれも不適切ということはないが、もちろん相手によってどれを選び得るかという点では差があるし、また、相手に対する伝達のニュアンスにも差があるように思われる。たとえば窓の外を見た話者が室内の相手にこう言う場合、20-1は単なる報告であり、「そうですか」という返答もあり得るが、20-4であれば相手を巻き込んで、相手が外を見、「ああ、本当に」と同意しなくてはならないようなニュアンスを持つ。これは「おまえ」の排他的指示機能によるFTAと言える。ただし、同時に「おまえ」の待遇度の低さ・親しさはポジティブ・ポライトネスとしての意図も持つ。家族間や親しい友人間などで互いにそれを許すという関係ならば、このような言い方はごく自然に行われるだろう。「あなた」はどうか。排他的指示によるFTAについては「おまえ」とほぼ同様と言ってよい。20-2・3は単なる報告ではない。しかし「あなた」には「おまえ」のようなポジティブ・ポライトネスの機能はないから、20-2・3のような会話が成立する関係はきわめて限られる。20-2であれば、やや古風な妻から夫へ、20-3は相手のフェイスを侵すことに躊躇のないような上位者から下位者、たとえば教師から学生・生徒へなどという場合のみが想定される。いずれにせよ、対称代名詞の排他的指示機能はここでもFTAとして働いていると見ることができよう。

5. むすび

以上、対称詞の選択の基準の一つとして、その排他的指示機能があることを論じてきた。ことに文脈上回避し得る対称詞があえて使用される場合には、そこに、この排他的指示の要求が働く。このため、回避しうる文脈で選ばれる対称詞は、むしろ排他的な指示力の強い対称代名詞であることが少なくない。さらに排他的指示機能そのものはFTAとして働くと考えられる。親しくない間柄での相手への強い批判、上位者から下位者への批判や要求などの場面でこのような対称代名詞はしばしば現れ、FTAを強化する。

もちろん対称詞の選択には排他的指示機能ばかりでなく、それぞれの語の待遇度や、相手との距離をどのようにとるかということなども関係している

と考えられるが、そのような要素と、この排他的指示機能との関連については項をあらためて論じたい。

註

- (1) 「対称詞」の概念は鈴木(1973-146)「話しの相手に言及することばの総称」という定義による。具体的には小論2.2に分類したとおりである。
- (2) 小林(2000)では、「排他的指示」について、①対称詞の省略が可能な文脈で、相手の注意を喚起し、念を押す場合にあって対者を特定する、②対者を独立した存在として話者から切り離して遇する、として説明した。
- (3) この「意識」には異論のある向きもあろう。「amazing」は「驚異的な」とでも訳すべきであろうが、日没に関してこのような客観的な形容は日本語ではあまりしない。「すごい」「すばらしい」「きれいだ」というような訳であれば、話者の判断がそこに入り、そのこと自体がFTAとなる。そこで比較的客観的に日没の形容をしているという意味で「真っ赤」という語によって作例してみたのである。

参考・引用文献

- 小林美恵子(1997)「自称・対称は中性化するか?」(『女性のことば・職場編』現代日本語研究会・ひつじ書房)
- 小林美恵子(1999)「自称・対称代名詞とその省略—映画『女人四十』にみる—」(ことば20号 現代日本語研究会)
- 小林美恵子(2000)「対称詞の諸相—TVドラマ『ビューティフルライフ』に見る」(ことば21号 現代日本語研究会)
- 鈴木 孝夫(1973)『言語と文化』(岩波新書)
- 高橋 圭子(1999)「日本語会話における対称詞—ポライトネス理論からの検討—」(ことば20号 現代日本語研究会)
- 高橋 圭子(2001a)「談話における対称詞の機能—FTAの補償と強化—」(東京大学・談話分析研究会における発表)
- 高橋圭子(2001b)「会話における対称詞の機能」(社会言語科学会第8回研究大会予稿集)
- ロビン・ギル(1989)『英語はこんなにニッポン語』(ちくま文庫)
- P. Brown and S. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage*
Cambridge University Press

(こばやし みえこ)